

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	6月	13日	(記入者) 喜多志乃	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天川村：天河大辨財天社収蔵庫安置の厨子入諸尊仏				

所在地	吉野郡天川村坪内107				
所有者(取材対応者)名	所有者は***さん、取材対応は柿坂匡孝(まさたか)宮司(個人情報守秘)			連絡先 ***	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：天河大辨財天社				
市町村指定文化財	彫刻	1 軀	厨子入諸尊仏 1994(平成6)年6月3日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成要素である大峯奥駈道が通る天川村には、役行者や修験者にまつわる伝説が多い。これらの小像は天河大辨財天社や修験道などに関わる諸尊で、いわば大峯・天川曼陀羅ともいうべき内容を示している。厨子に納まる諸尊は仏であるが、神仏習合である神という位置づけで祀られている。				
文化財の状況					
防火対策	設備・対策・点検・通知方法など			記入者の感想	
	消火器、そして煙を感知する感知機とそれを知らせるサイレンが設置されている。天河大辨財天社全体で年2回(2月と9月)火災予防訓練を行っている。			特になし。	
獣害対策	被害の有無、対策など			記入者の感想	
	天河大辨財天社の収蔵庫はコンクリート造の建物で、かつ入口扉は分厚い鉄扉となっているため、害獣は入ってこられない。			害獣は入ってこられないため被害はない。	
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	天河大辨財天社の収蔵庫に安置されており、収蔵庫へは関係者以外は立ち入る事が出来ない。「空調の関係で湿気が多い」と柿坂宮司様は仰っていた。2014(平成26)年、「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年記念事業の一環で大阪市立美術館に厨子入諸尊仏を出展した。その際に当美術館からの紹介の仏師に「観音扉の欠損」と「須弥座部の上部より吊り下げられている小さな鎖」の修理を依頼した。ただ今回の取材で「須弥座部の上部より吊り下げられている小さな鎖」の左側2つが欠損していた。				
取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)					
村ホームページの写真の「厨子入諸尊仏」は2014(平成26)年の修理が終了時に撮られたもので、その写真を今回取材票に転載した。当時写っていた「左側2つの鎖」が現在欠損している。その理由を柿坂宮司様に尋ねると「欠損の理由は分からない」とのこと。全体的には綺麗な状態で収蔵庫に安置されていた。今後も管理の行き届いた天河大辨財天社の収蔵庫に安置されるのが望ましいと思われる。					

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	6月	13日	(記入者) 喜多志乃	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天河大辨財天社 収蔵庫 安置の厨子入諸尊仏				

〈「厨子入諸尊仏」は天川村のHPから。転載許可済み〉

文化財指定名 厨子入諸尊仏

文化財 (正面写真)	取材時に欠損していた小さな鎖部分
	
厨子入諸尊仏が安置されている収蔵庫	収蔵庫のある天河大辨財天社

	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

江戸時代初期の作品とされている。厨子の高さ約21.2cm、幅約27.5cmの黒漆で観音開き（村ホームページより）。その厨子の中に檀像風の諸尊仏17軀ほど（六臂弁財天立像、弘法大師坐像、龍神立像、役行者など）が安置されている。各像は小像ながらかなり緻密な彫りである。厨子の裏側には「慶長十六（十二にも見える）年五月七日 開眼成就」と墨書きされている。

もともと***氏所有の厨子入諸尊仏だったが、現在は夫人の**氏が所有されている。2016（平成28）年に**様宅付近に地すべりが起こった。***氏のご自宅も被害にあわれ、村営住宅へ引越しをなされたのを機に、天河大辨財天社の収蔵庫へ安置する事となり、現在に至っている。厨子入諸尊仏を***氏が所有する事となった経緯について柿坂宮司はご存知ないとのことだった。